

## タイ

### 総括

2007 年障害調査の結果によると、タイには約 1,833,297 人の障害者がおり、これは全人口の約 2.85%にあたる。7 歳以上では 389,402 人が聴覚障害者で、この年齢層の約 0.7%になる。その内 3 分の 1 以上が音声会話に苦勞しており、手話の使用が有効である。しかし、聴者のほとんどは手話に関する知識がなく、また学ぶ意思もない。ろう者が手話通訳なしに音の情報を得ることができないことは十分に認識しているにもかかわらず、過去に正式な手話通訳者の養成は行われてこなかった。現在のところマヒドン大学ラチャスダ校が手話通訳プログラムを実施している唯一の教育機関である。

### ろう教育

1951 年にタイのろう者に対する最初の教育プログラムが開始された。これはバンコクの公立学校で 12 人のろう学生に対する実験的なクラスであった。後にこれが発展して、タイでの最初のろう学校となった。初めに赴任した 2 名の教師はアメリカのギャローデット大学で養成を受けた。

過去 60 年間に渡り、多くの学校や教育プログラムが設立され、現在ではタイ王国全土で、およそ 281,221 名のろう・難聴学生のうち 29,372 名が様々なプログラムからサービスを受けている。19 州に 20 校あるろう寄宿学校も含めるプログラムが 5,909 名の生徒に、多数の特別教育センターが 372 名の就学前児童に、様々なメインストリーミング・プログラムが 1,195 名の生徒にサービスを提供し、そして 500 名以上のろうカレッジ生や大学生に対して様々なプログラムで情報保障を提供している。

### 手話通訳者の歴史

カマラ・クライルージという女性が 1954 年にアメリカのギャローデット大学においてろう教育の修士課程を卒業すると、初めて手話通訳者を連れてきた。彼女は手話と指文字をろう学生の授業に取り入れた。こうしてタイの人々は手話通訳者の存在を初めて知った。

初期の手話通訳者は、ほとんどの場合ろう者の家族ではなく、ろう学生の教師たちであった。なぜなら、教師は子どもたちとコミュニケーションをとるため

に手話を使用せねばならず、多くの教師はろう学生のための通訳者も務めなければならなかった。その後、警察や裁判所にも派遣された。その頃、タイの人々は障害者であるろう者の親戚をはずかしいと思う非常識な態度をとっていた。障害者の才能に対して関心を払うこともなかった。自らの生活のために、ろう者の親戚を通して通訳者になった。

現在では手話通訳者は活動方針を持つようになり、謝礼金も得た。それはろう者の教育分野での新しい職業となった。タイではようやく手話通訳者の養成を始めたところだが、通訳者レベルの認定にまでは至っていない。通訳者はろう学校や教育機関の教師になる。

### 基本的手話通訳者の養成

現時点ではマヒドン大学ラチャスダ校がタイで唯一の手話通訳プログラムを提供している学校である。このプログラムは1998年にオーストラリアのラ・トロープ大学の全国ろう者学・手話研究所と間の協働で始まった。以下のような多くのプログラムが創設されている。

- 1998年12月～1999年1月 参加者は28名のボランティアで、タイ全国からのろう学校教師とタイろう者協会からのボランティアである。この養成の後、手話通訳者クラブが設立され、初代会長はマリワン・タマサン博士であった。
- 3つの手話通訳者カリキュラムの卒業生合計数
  - ・ タイ手話通訳者の認定プログラム、4グループ、52名
  - ・ 手話通訳専攻のろう者学学士プログラム、2グループ、68名
  - ・ タイ手話学部通訳プログラム卒業資格、1グループ、31名
  - ・ これら3つのカリキュラムの総卒業生は151名
    - \* 手話通訳者としての就労希望者予測は約40名
- 現在はマヒドン大学ラチャスダ校に手話通訳者に関するカリキュラムが2つある。それは：
  - ・ 学士号、ろう者学部、タイ手話通訳者第3期、5年間、55名
  - ・ 学士号、タイ手話通訳者学部、4年間、2010年からの新しいカリキュラム、48名の在学学生
- タイ手話、タイ手話通訳者の短期基礎プログラム

### 手話通訳者謝礼金

- 国家公務員の一般的な収入と同等の9,000～12,000バーツの給与を正規雇用者として毎月得る。

- 医療通訳の場合には1時間当たり300~500バーツ。
- セミナーやトレーニングでは1回当たり600バーツ。
- 民間会社での謝礼金は異なる。

#### 手話通訳者サービス

過去において、手話通訳者サービスは非常に重要であったが、資金不足で十分な対応ができなかった。通訳者派遣サービス事務所はバンコクに11ヶ所、郊外に1ヶ所しかない。ろう学校の教師はこれ以上通訳者やろう協の活動を担うことはできない。ろう者は行政、教育、就労、民間事業などに対処する通訳者をさらに必要としている。現在、全国障害者エンパワーメント・オフィス（NEP）が手話通訳者サービス事務所を担っている。そこには472名の通訳者が登録されている。この数字には健聴通訳者とろう通訳者が含まれている。しかし、資格を持つ通訳者は30名しかいない。よって、私たちはこの通訳者の能力向上支援をしなくてはならない。プロ通訳者になるように養成が必要である。

#### タイ手話通訳者の提供するサービス

- 相互教育学校、スワンドウシット大学、マヒドン大学ラチャスタ校、職業教育カレッジの様な学校での教育
- 会議、セミナー、国内および国際トレーニング
- NBT テレビ、タイ公共放送サービス(タイPBS)、1985年に初めての出演
- 病院、警察、法廷
- 報道発表、2001年6月9日に首相官邸において大臣クラッセー・チャナウオン博士によるスピーチ
- 国会議員代表者会議、2002年5月23日~25日、28日
- 初めての商品広告、2005年

#### 6.2 手話通訳者サービス事務所

- バンコクにおいては、社会サービス福祉部、または担当部署の部長
- モデル事業の開始：テレコミュニケーション・リレー・サービス(TRS)
- ろう者と共に働くいくつかの組織に通訳者が配置されている。
- 他の地方において、人間関係その他の分野の社会保障事務所
- 手話通訳者が財務省より名誉事務員として報奨金および事務規則による諸費用を受け取った。

#### タイ手話通訳者協会 (NATSI)

- 2003年3月13日、学術会議、手話通訳者と手話通訳学生の29名、タイ手

## 話通訳者協会（NATSI）の設立について討論

- 2003年9月26日、NATSI登録、委員会メンバー10人から構成。ソフォン・チャイワナタナクンワニッチが初代会長
- 2008年7月22日、委員会メンバー11人から構成する新しい委員会を設立、マリワン・タマサン博士が会長
- 全国タイ手話通訳者協会の頭文字（NATSI）
- タイ語の標記： **สมาคม**



住所：137、Praram 5, Dusit, Bangkok

電話：02-243-6695

Fax：02-243-6695

総勢 50 名

## 目的

- 資格を持つ通訳者の提供とタイ手話通訳者サービスとの協力
- タイ手話通訳者の国代表となる
- 会員間で知識や経験を高め合う
- 手話通訳者についての実態を一般に広める
- 研究と調査
- 会員の技術レベルおよびトレーニング参加や研究の促進と調整
- 国内外で同様の目的を持った研究所や協会、組織との協働

## 概要

タイ政府は、ろう者における多くの情報に対するアクセスの重要性について理解を持ちはじめ、さらに手話通訳者養成事業の戦略的計画も発展中である。第1期（2012年～2016年）

- 手話通訳事業の方針並びに運営管理の策定
- 手話通訳者のレベル向上と増員の策定
- 手話通訳事業の評価システムの設定と改善
- 手話通訳派遣事業のための事務所の設立
- 手話通訳者派遣を使ったコミュニケーションによる社会参加への支援

## WASLI や他の組織からの援助希望

- 手話通訳者指導者のための研修
- プロ通訳者をめざす手話通訳者の開発過程へのサポート
- 経験を広げるための他の国との通訳者の派遣交流

- 手話通訳者養成法へのアドバイス